

「中部圏地域創生ファンド」(仮称) づくりについて

1、名称

新基金の名称は仮称で、「中部圏」における「地域創生」のための「ファンド(基金)」という意味で付けています。

2、取組みの趣旨と経過

1) 愛・地球博の剰余金 13 億円を原資に設立されたあいちモリコロ基金は、あと 2 年で終了することから、愛・地球博及びあいちモリコロ基金の理念と成果を記憶継承し、さらに、21 世紀の中部圏における共創力や地域力の向上を支える「基金」をつくる取組みを始めました。

2) あいちモリコロ基金は、愛・地球博協会(豊田章一郎会長)の決定を受けて、地元 4 団体(愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所、中部経済連合会)が協議して設立されたことから、「新基金」についても 4 団体の皆様に協議検討して頂くことをお願いしていきたくと考えています。

3) この間、基金運営委員会が、助成事業の成果を調査されたところ、助成を受けた事業や団体の成長だけでなく、地域にも大きな成果を及ぼしていることがわかりました。この調査結果もとに、モリコロ基金を検証するフォーラムや新基金の枠組みを検討するシンポジウムが開催されました。

また、新しい基金を作る賛同署名が開始され、現在、学識者、行政関係者、市民団体など 2871 件(うち、団体署名が 242 件)の賛同署名が寄せられています。

3、新基金のイメージ

1) 新基金は民間資金と公的資金の特徴を活かし、官民共同でつくります。公的資金は、民間資金を受け入れる受け皿・基盤をつくり、民間資金は柔軟で臨機応変な対策・支援を行う助成金や寄付金に使用します。

2) 新基金は継続発展する仕組みにする。このためには、信用のある受け皿を用意しておくことが重要です。

3) 東海東南海地震への対応、リニア開通により変貌する地域社会への対応、高齢化や少子化、地域コミュニティの衰退などの社会的な課題への対応が、助成事業の主要なテーマとして想定されます。

4) 助成金や寄付金は中部圏から募集し、テーマに適合した中部圏に関わる活動に助成・

寄付します。助成・寄付の対象(団体・事業)は、非営利部門と営利部門を置きます。

* 「新基金」の参考例として、大阪商工会議所が中心となり、大阪府、大阪市などとともに 1991 年に設立した「大阪コミュニティ財団」がある。事務所は大阪商工会議所ビル内にあり、事務局スタッフは大阪商工会議所からも派遣している。寄付者の意思に沿って運営される個別基金がおよそ 200 ほどあり、共同運営されていて、「マンション型財団」ともよばれる。助成金や寄付金は全国・世界から募集し、全国・世界へ助成・寄付している。

4、今後の取組み

1) 平成 28 年度、愛知県は、名古屋市、名古屋商工会議所、中部経済連合会、学識者とともに、「検討会議」を設置する。

2) この「検討会議」及び関係者に対する、新基金設立の働きかけをしていきたい。

3) そのため、新基金の議論を深め、賛同署名を拡大し賛同の輪をひろげたい。

* 賛同よびかけ人名簿、署名簿など参照

以上

